

感謝録

荒井 久和子姉 飯田 和晴兄 不破 満雄兄
加納 幸子姉 小坂 るみ姉 三繩 博兄
三繩 都美子姉 下竹 博兄 下竹 寛子姉
下竹 祐三郎兄 下竹 由美子姉 武井 里花姉
Scroggins 由紀牧師

記事:消息

* Emily Heitzman姉がこの度、新しくMinister of Children and Youthに任命されました。姉はGarrett Evangelical Theological Seminaryを卒業され、現在Presbyterian Church の Ordination の準備中です。

* July 10–14, 2013

10th Wheel Gymnastics World Championships

North Park University Gymnasium 3225 W Foster Ave, Chicago

ラーで活躍されている吉田望姉がシカゴに来ておられますが、世界選手権大会がきたるJuly 10–14にシカゴで行なわれるので、その準備をされています。この大会には日本からも14名の選手が参加しますので、是非みなさんで応援に出かけたいと思います。さらに詳しい情報は www.wheel2013.com へお願ひします。

* 過ぎにし聖日(6月16日)

— 由紀牧師の説教：“リベカとイサクの出会い”と題して、創世記24章62–67節からでした。年老いたアブラハムは、息子イサクのために結婚を計らい、しもべを故郷に送り、主を信じたしもべが導かれてリベカと出会いました。そして主を信じている家族のもとから彼女は、イサクのもとへ嫁きました。父アブラハムは、息子が異教徒の女性の影響から守られ、神への信仰を守ること、母なき後に慰められるように、と考えていました。父の愛と信仰、そして、それに伴う神の導きについて考えました。

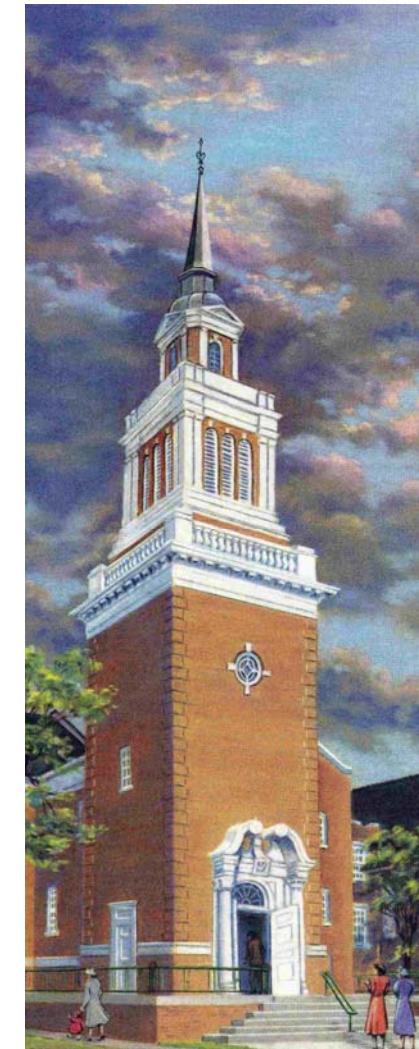
— 聖書研究：ローマ人への手紙10章18–21節からでした。選ばれた民族が聞き従わない時、主は他の民族に手をさしのべ、妬みをおこせます。しかし、それにもかかわらず、主ご自身が選んだ民が気づくように、手を差し伸べてくださる方です。主のみことばが世界の果てまで及んだ(詩篇19篇4節)とあるように、すべての民にとって信仰は神のみことばを聞くことから始まるについて学びました。

— 6月23日(日) 第四日曜なので、礼拝後、親睦ランチがあります。食事を用意してくださる御婦人方に感謝致します。

発行：2013年 6月 18日 ノースショア・バプテスト教会日本語部

スクロギンズ 由紀牧師 (Rev. Yuki Scroggins)

Tel: 773-728-4200 Ext.26 Email: yscroggins@northshorebaptist.org



週報

第3439号

2013年 6月 23日

ノースショア バプテスト教会 日本語部
North Shore Baptist Church Japanese Congregation

5244 North Lakewood Ave. Chicago, IL 60640

Tel: 773-728-4200 Web: www.northshorebaptist.org

日曜日礼拝順序

2013年 6月 23日 午前11時 南部チャペル

前奏		武井 里花姉
讃美歌	539	
開会の祈り		Scroggins 由紀牧師
主の祈り		一同
交説文	45 コリント前書13章	
賛美歌	9 "ちからある主を ほめたたえまつれ"	
祈りの時		Scroggins 由紀牧師
聖書拝読		飯田 和晴兄
	使徒行伝 9章 26-30節	
賛美歌	239 "さまよう人々、たちかえりて"	
説教	「初代教会の発展」	Scroggins 由紀牧師
賛美歌	515 "十字架の血に きよめねれば"	
献金		小坂 るみ姉
報告		
讃美歌	541	
祝祷		Scroggins 由紀牧師
後奏		武井 里花姉
(礼拝終了:奉仕開始)		

祈祷・聖書学習会 午前9時45分 109号室
ローマ人への手紙 11章 指導: Scroggins 由紀牧師

親睦ランチ 礼拝後 南部チャペル

今週の聖句

列王紀上 19章1-15a節 詩篇 42, 43篇
ガラテヤ人への手紙 3章 23-29節
ルカによる福音書 8章26-39

憩いの場

"用意して待ちなさい "

"だから目を覚ましていなさい。その日その時が、あなたがたにはわからないからである。" (マタイによる福音書25章13節)

時間通りに物事が進むことを期待する現代人は、待たされる事が苦手です。バスや電車などでも時間に遅れが出ることを嫌いますが、それは本人の嗜好というよりは、ビジネスに支障が出ることを恐れるからです。数年前に日本へ行ったとき、東京からある町へ新幹線に乗って出かけてきました。日帰りだったのですが、帰りの列車の時間が1時間ぐらい遅れました。私は其の晩に東京に着けば大丈夫だったので、やれやれと思いつつも、近場で食事をしてもどってくると、駅の構内の周りにいるスーツを着た男女たちは、携帯で勤務先などに連絡を入れたりして、大変そうでした。

しかしこのように、待つということ自体、ストレスになりがちな世の中においても、聖書は信徒たちにキリストのご来臨を待ち望むように教えています。そして、聖書で"待つ"ことは、期待して能動的に準備をして待つ、という意味があります。主イエスの語られた、たとえの中に出てくる10人の乙女たちも、花婿を待つ、というなかで、其のうちの5人はちゃんと油を持って用意していましたが、後の5人は持っていました。そして、いざ花婿の到来、となったときに、油を持っていない5人は恥をかいただけでなく、婚礼に入る事ができなくなってしまいました。私たちは、日々の生活の中で、乙女たちのように靈的に眠ってしまうことがあるかもしれません。キリストのご来臨は、頭でわかつていても、遠い先の話であり、今の生活とは関係ないと思っている方もあるでしょう。しかし、主がたとえられたように、花婿(キリスト)は突然、やってこられます。其のとき、私たちは賢い乙女たちのように、用意ができているでしょうか。私たち一人ひとりが自身に与えられた神からの使命に目覚め、用意をして待つ事ができますようにお祈りします。 (スクロギンズ由紀)